

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 8 日現在

機関番号：34509

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26285126

研究課題名(和文)ひとり親家族にみる社会的排除、複合差別、および、社会的支援に関する日韓の比較研究

研究課題名(英文) The comparative research between Japan and South Korea on social exclusion, compound discrimination, and social support concerning with single women with children

研究代表者

神原 文子 (Kambara, Fumiko)

神戸学院大学・現代社会学部・教授

研究者番号：50186178

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、日本人35名、在日コリアン16名、韓国人34名のひとり親家族の母親にインタビュー調査を行なった。死別9名、離別51名、非婚25名である。ひとり親になる前から現在まで、彼女たちの生活について詳細に検討した。その結果、死別、離婚、非婚の間に生活状況の違いがみられるが、離婚女性の中や非婚女性の中でも生活状況の違いがあること、日本でも韓国でもひとり親に対する社会的排除や複合差別が今日なお存在していること、在日コリアンのひとり親が社会的排除と複合差別を最も被っている可能性が高いこと、そして、多くの子づれシングルにとって私的な支援のみならず公的機関からの支援がより必要であるとの結論に達した。

研究成果の概要(英文)：In our research, we practiced interviewing thirty-five Japanese single women with children, sixteen Korean single women with children in Japan, and thirty-four South Korean single women with children. Nine women were widow, fifty-one women were divorced, and twenty-five women were unmarried. We studied their lives in detail from their former marriage or giving birth to the present situations. And we reached the conclusions that single women with children have distinguishing traits not only among widow, divorced, and unmarried but also among divorced women or among unmarried women, there are still social exclusion and compound discrimination against single women with children both in Japan and South Korea, specially Korean single women with children in Japan may have experienced more social exclusion and compound discrimination than Japanese and South Korean, and it is necessary for most of them to be supported much more by not only private relationship but also public organizations.

研究分野：社会学

キーワード：ひとり親家族 日韓比較 社会的排除 複合差別 在日コリアン女性 非婚母 社会的支援 ソーシャルネットワーク

1. 研究開始当初の背景

従来のが国におけるひとり親家族研究においては、厳しい経済状況を引き起こす要因として相対的な低学歴、常時雇用の少なさ、不安定就労の多さ、低賃金、社会的支援の乏しさなどが指摘されてきた。しかし、社会的排除や複合差別の実態については実証研究がなされておらず、また、既存の社会的支援策がひとり親家族の生活自立や生活改善にとって必ずしも効果を上げていないとは評価できないことから、有効な支援策について実証研究を行い、政策提言する必要があると判断された。

2. 研究の目的

本研究では、日本、韓国、在日コリアンのひとり親家族に焦点をあて、(1)ひとり親家族が被っている複合差別の実態とひとり親家族にみられる社会的排除の実態について国際比較し、複合差別や社会的排除を維持させている諸要因の共通点と相違点を解明する。(2)ひとり親家族が複合差別や社会的排除に抗するうえで、就労による経済的安定が重要課題であることから、日本、韓国における就労支援策に焦点をあて、就労支援策の現状と課題を検討するとともに、官、民に限らず、たとえばソーシャル・ビジネスなどによる就労支援策の成功例を掘り起こし、これからの就労支援のあり方について政策提言を行う。

3. 研究の方法

日本人 35 名、在日コリアン女性 16 名、韓国人 34 名の子づれシングル女性を対象に、事前のアンケート調査と半構造化面接を実施し、日常生活の様子、ひとり親家族になったいきさつ、これまで体験してきた社会的排除や複合差別の現状、および、受けてきた社会的支援などについて情報を得た。

4. 研究成果

日本、在日コリアン、韓国における子づれシングル女性たちの中で、これまで、社会的に、また、親族からも差別を経験してきた人が少なくないこと、他方、私的な支援を受けながら起業している女性も存在していることから、子づれシングル女性と子どもたちへの有効な支援のあり方について重要な知見を得ることができた。(1)離婚した子づれシ

ングル女性のなかで、離婚後に生活困難に直面している人々は少なくなかったが、多くの女性たちが離婚前の生活よりも良くなった評価している。(2)日本と韓国における非婚母の比較において、韓国ではさまざまなネットワーク支援の存在によって彼女たちの生活が支えられており、日本では私的な支援以外にネットワークが乏しいことが明らかになった。(3)在日コリアンのひとり親たちのなかで、在日コリアン社会における男尊女卑観の根強さや閉鎖性ゆえに、結婚中も離婚後も困難を余儀なくされている傾向がみられた。(4)韓国では、2007 年頃より、海外養子が禁止されたこともあり、非婚で出産した子どもを海外養子に出さずに自分で育てる女性たちが徐々に増えてきており、国においても支援に動き出しており、また、彼女たちを支援する当事者団体や民間団体の活動が活発化している。しかし、経済的には厳しい非婚母も少なくなく、社会全体では差別や偏見も根強い。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

雑誌論文

- ・神原文子「子づれシングル女性の生きづらさ - 奈良市ひとり親家庭等実態調査より」『新社会学研究』第 1 号、査読あり、137-158, 2016.
- ・神原文子「ひとり親家族の『自立』と社会的支援」『市政研究』191 号、査読なし、大阪市政調査会, 30-39, 2016.
- ・神原文子「重複差別 - 被差別部落の子づれシングル女性の場合 - 」『現代社会研究』創刊号、査読あり、74-91、2015.
- ・神原文子「被差別部落の子づれシングル女性の実態を捉える - 兵庫県被差別部落女性の実態調査より - 」『ひょうご部落解放』vol.157, 査読なし、4-14, 2015.
- ・神原文子「『家族戦略論』アプローチの有効性と限界」日本家族社会学会編『家族社会学研究』26-1、査読なし、45-52, 2014.
- ・近藤理恵「フォスターケアの担い手を見つけることの困難性と支援の困難性 日韓のソーシャルワーカーに対する調査をもとにして」(桐野匡史と共著)『社会分析』日本社会分析学会, 44, 査読あり、119-129, 2017.

- (「未婚母の妊娠・出産危機経験と危機解消のための支援システム改善方案」(金チヘ, シン・オクジュと共著) 『韓国社会福祉行政学』17(2): 277-309, 査読あり、2015)
- ・ (ソン・チョンヒョン) (チヨ・ソンヒ) が (金チヘ) と共著), 『韓国社会福祉行政学』16: 259-291, 査読あり、2014。(「ひとり親福祉施設の従事者の倫理意識がクライアントとの関係に及ぼす影響: 専門性の媒介効果を中心に」 『韓国社会福祉行政学』16: 259-291, 査読あり、2014)
 - ・ (金・ヒジュ) Qualitative analysis of informal curricular texts about multiculturalism in Korea: Two cases of government sponsored public service advertising. (with Na, J., Cha, D.) KEDI Journal of Educational Policy. 13(2): 159-178, 2016.
 - ・ (金・ヒジュ) Gender Differences in the Effects of Job Control and Demands on the Health of Korean Manual Workers. (with Kim, J., Jang, Y. & Bae, J.) Health Care for Women International. 37(3): 288-300, 2016.
 - ・ (金・ヒジュ) (金チヘ) 가 (金チヘ) と共著), 『韓国社会福祉行政学』19(3): 147-174, 査読あり、2014。(「韓国の父子家族福祉施設の運営事例研究」(チャン・ヨンジン/金チヘと共著) 『韓国家族関係学会誌』, 19(3): 147-174, 査読あり、2014.)
 - ・ (金チヘ) Gender Differences in the Effects of Job Control and Demands on the Health of Korean Manual Workers. (with JH Kim, YJ Jang & JY Bae) Health Care for Women International. 37(3): 288-300, 2016.
 - ・ (チヨ・ソンヒ) 가 (金チヘ) と共著), 『韓国社会福祉行政学』37(2): 157-168, 2016。(「離婚家族における青少年の非養育父母との関係に関する研究」, 『児童学会誌』, 37(2): 157-168. 査読あり、2016.)
 - ・ (チヨ・ソンヒ) (金チヘ) 가 (金チヘ) と共著), 『韓国社会福祉行政学』18(2): 149-180, 査読あり、2016。(「養育未婚母の自立経験に関する研究」 『韓国社会福祉行政学』18(2): 149-180, 査読あり、2016.)

行政学』,18(2):149-180.査読あり、2016.)

- ・ (チョ・ソンヒ)
() と共著) ,
. 24: .115-143 , 2016 .
(「邑面洞単位の民官協力の現況に関する
研究」(ユ・ヨンシクと共著) , 『人文社
会科学研究』 , 24: .115-143 , 査読あり、2
016 .)

学会発表

- ・キム ヒジュ、キム チへ「女性ひとり親の自立経験に対する類型別の事例研究 - 死別、離婚、未婚母家族を中心に」韓国福祉社会学会、2016年10月22日、「延正大学(ソウル)」
- ・神原文子「子づれシングル女性の生きづらさから自立条件を探る」韓国福祉社会学会、2016年10月22日、「延正大学(ソウル)」
- ・田間泰子「非婚母と社会的ネットワーク - 多様性と共通点、そして変化をてがかりに - 」韓国福祉社会学会、2016年10月22日「延正大学(ソウル)」
- ・チョ ソンヒ「韓国におけるシングルマザー：家族の実態に関する研究」日本家族社会学会、2016年9月10日「早稲田大学(東京)」
- ・ソン チョンヒョン「韓国における離婚女性の自立経験」日本家族社会学会、2016年9月10日「早稲田大学(東京)」
- ・神原文子「子づれシングル女性の生きづらさから自立条件を探る」日本家族社会学会、2016年9月10日、「早稲田大学(東京)」
- ・田間泰子「非婚母と社会的ネットワーク - 多様性と共通点、そして変化をてがかりに - 」日本家族社会学会、2016年9月10日、「早稲田大学(東京)」
- ・朴君愛「大阪府在住コリアンのシングルマザーへのインタビューを通じて考える『複合差別』」コリアン・マイノリティ研究会、2015年10月27日「(大阪市内)」
- ・神原文子「『複合的な差別』を実証する試み」日本家族社会学会大会、2014年9月6日、「東京女子大学(東京)」

図書

- ・近藤理恵、尹靖水、岡田節子編著『多文化家族における家庭内暴力と福祉的介入の国際比較研究』Bookway(学術研究社) ,

1-338 , 2016 .

- ・田間泰子「受胎調節(パースコントロール)と母体保護法」白井千晶編『産み育てと助産の歴史 近代化の200年をふり返る』医学書院、110-135、2016 .
- ・田間泰子「奈良の出産事情」白井千晶編『産み育てと助産の歴史 近代化の200年をふり返る』医学書院、289-293、2016 .
- ・「父親と社会」我部山キヨ子編『助産学講座 4 基礎助産学 4 母子の心理・社会学』第5版、医学書院、208-222、2016 .
- ・田間泰子「子どもと社会」我部山キヨ子編『助産学講座 4 基礎助産学 4 母子の心理・社会学』第5版、医学書院、223-252、2016 .
- ・神原文子・杉井潤子・竹田美知『よくわかる現代家族 第2版』ミネルヴァ書房、1-196 .
- ・田間泰子『問いからはじめる家族社会学 多様化する家族の包摂に向けて』有斐閣、(岩間暁子・大和礼子と共著)1-221、2015 .
- ・神原文子「社会システムとしての家族」清水新二・宮本みち子編著『新訂 家族生活研究 - 家族の景色とその見方 - 』放送大学教育振興会、69-88、2015 .
- ・神原文子「生活者と家族ライフスタイル」清水新二・宮本みち子編著『新訂 家族生活研究 - 家族の景色とその見方 - 』放送大学教育振興会 173-194、2015 .
- ・神原文子『子づれシングルと子どもたち - ひとり親家族で育つ子どもたちの生活実態 』明石書店 1-276、2014 .
- ・田間泰子「性・生殖と家族」宮本みち子・岩上真珠編『リスク社会のライフデザイン』放送大学出版会、114-129、2014 .

[雑誌論文](計 22 件)

[学会発表](計 9 件)

[図書](計 8 件)

〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

・神原 文子 (KAMBARA Fumiko)・神戸
学院大学・現代社会学部教授
研究者番号：50186178

(2) 研究分担者

・田間 泰子 (TAMA Yasuko)・大阪府立大
学・人間社会システム科学研究科 教授
研究者番号：00222125

・近藤 理恵 (KONDO Rie)・岡山県立大
学・保健福祉学部 教授
研究者番号：60310885

・梁京姫 (YANG Kyunghee)立命館
大学・言語教育センター 講師)

研究者番号：90527699

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

・朴君愛 (PARK Koonae) アジア太平洋人
権情報センター主席研究員)
()

・ (ソン・チョンヒョン)(SUNG
Junghyeun) 協成大学 教授
・ (金・ヒジュ)(KIM Heejoo) 協成
大学 助教授
・ (金チヘ)(KIM Jihye) 協成大学
助教授
・ (チョ・ソンヒ)(CHO Sunghui) 協
成大学 助教授
・キム・ヘヨン(KIM Hyeyoung) 淑明女子
大学 教授